

景気動向、業界動向、環境変化に関する意見多数

～ 都内中小企業の景況調査の自由意見欄から ～

- 東京都産業労働局 -

東京都では毎月、中小企業の景況について調査を実施している。このほど発表された11月調査では、景況については「連続悪化に歯止め。わずかに持ち直す」とし今後の見通しについては「慎重な見方続く」としている状況。調査票の自由意見欄に意見を寄せた234企業の内容を見ると、全体では景気動向、業界動向、環境変化に関する意見が多く、また、今回の特徴としては原材料の価格上昇に関する意見が多いことがあげられる。自由意見欄の内容から特徴的なものを紹介する。

① 業界動向・環境変化について

見積競争による単価下落が年々目立ってきています。 (軽印刷業)

印刷業者の中でも中小企業の廃業が増えつつある。受注は増えるはずだが、一方で企業各社は印刷機を増やして自社内で印刷を行うため、需要は激減する一方である。 (一般印刷業)

日本そば屋への販売が多いが、昨今廃業などで閉店するところが多くなっており、また、食品の多様化によるそば屋自体の売上の伸び悩み等により、販売実績が落ち込んでいる。

(乾物・加工食品卸売業)

所属しているカメラ店組合の組合員

に転廃業が続き、1,800店から500店に激減。デジタル化が急速に進んでいるが、投資が高額でとても続けられない。

(カメラ小売業)

建設コンサルタント・土木設計業界も大手集約になりつつありそうです。当社の元請も業務量が減少し、社内消化の傾向です。ますます当社への業務が減ってきています。

(土木建築サービス業)

② 景気動向について

今年一年は業績不振による専門小売店の廃業等が多く目立つ。今後ますます商店街での消費者離れが増し、灯が

消えていくとの不安の声が多い。

(パン・菓子卸売業)

当社は婦人服の卸業ですが、お得意先の小売店、特に路面店の人通りが少なく、売れ行きの悪さから廃業される店が多く本当に困っております。商店街に昔のような賑わいを取り戻してほしい。

(婦人・子供服卸売業)

相変わらず運送部分へのしわ寄せ(割引・値引等)がきている。

(道路貨物運送業)

③海外企業との競争の影響等について

我々職人が苦心して「良いデザインを」と加工をして見本を作ったものを、日本の業者が中国や台湾に持って行き、質は劣るものの、その見本と似たものを安い工賃で作り、それを日本で安く売ってしまうと、我々は値段で負けて仕事がなくなり、廃業に追い込まれてしまう。

(装身具製造業)

海外諸国(特にアジア諸国)との競争が始まっていますが、徐々に厳しさが表面化してきています。コスト面では打ちできないので「せめて品質面で」と考えていますが、属人的要素が大きいので難しいところがあります。

(ソフトウェア業)

④資金・金融機関等について

保証協会の審査が厳しく、融資が思うようにいきません。

(家具製造業)

金融機関の新商品も多く出て、借入れについては緩和されているが、利息が5%前後と高めになっている。また10%を超える商品も多数ある。利息の安いものは保証協会付で条件も多く、協会の姿勢はまだまだ厳しい。

(製本業)

都市銀行が融資の基準を厳格化しているようで、返済は進んでいるのに、新規の借入れに応じようとしないので苦慮している。数字だけで判断し、話を聞いてくれない状況である。

(鋳螺卸売業)

⑤経営上の課題・経営姿勢について

秋口は毎年売上げが落ち込むが、今期は年末から受注増加に向かう予定です。経営課題は、現状社員の能力向上と生産部門のパート化をあげていきます。

(染色整理業)

収支ギリギリで、その対策として経費節減を続けてきたため、企画等、付加価値を生み出す部門が弱くなり、競争力がそがれ苦しんでいます。

(靴卸売業)

⑥原油・原材料の値上がりについて

原材料(白板紙、洋紙)の値上がり

が製品価格に転嫁できない。製紙メーカーの倒産、合併により共同値上げを実施され、国際価格の30～40%高の価格となっている。(紙製容器製造業)

原油・エチレンの値上がりで材料(プラスチック原料)が3、7、10、12月と4次の値上にもかかわらず、売値が上がらず苦慮しています。

(プラスチック・ガラス製造業)

社会保険料と産廃費の上昇、二つの問題が、本業以外では大きい。

(工業用ゴム・セメント製造業)

青果卸業は台風と長雨による悪影響から商品価格が高騰し、資金繰りに大きな影響があった。商品不足は来春まで続きそうである。

(青果・果実卸売業)

鳥インフルエンザの影響からくる羽毛製品安と、暖冬で物が売れず、厳しい状況です。(寝具小売業)

⑦その他 天候の影響、法律・税制の影響等